

一步前進 児童生徒・引率者に

無症状を含め 無料でPCR検査

緊急事態宣言中 部活動の大会等を実施するために

千葉県教育委員会は、新型コロナ「緊急事態宣言」期間中であっても、教育活動である部活動の大会などを実施するために、複数の学校がかかわるスポーツ大会・発表会、自然体験等に参加する児童生徒や引率者などに唾液によるPCR検査（希望者）を無料で実施します。検査の申し込みは、学校が一括して行い、実施期間は8月31日まで。申し込み期限は8月24日です。県は、およそ3500件の検査を見込み、その費用2000万円を確保し、県単独の事業として実施します。

このような無症状者も対象とした検査は、多くの関係者が望んでいたもので、日本共産党もくり返し求めていました。

柏児童相談所 室温34.5℃ 職員が熱中症 (8月10日午後)

簡易クーラーなど応急対策を要望

6か月も「放置」した県の責任は重大です

猛暑が続く8月6日、「県柏児童相談所でエアコンのない部屋で仕事していた職員が熱中症」「一時保護の子どもがイライラしている」などの訴えが寄せられました。連休明け10日に現地を調査（左下の写真）し、県にただちに簡易クーラーや臨時の電源確保など応急の猛暑対策を緊急に要請しました。

県は「全館一括の空調が不調となり、施設も老朽化しているため、設備を新しく（修繕）するには、時間や費用がかかる」といいますが、今年度、そのための予算措置すらしていません。気象庁が「命の危険がある暑さ」だと警告しているもと、児相執務室や一時保護所に必要なエアコンを整備せず、劣悪な状態、過度の負担を強いることは、職員と子どもたちの命にかかわる重大問題です。

しかも、柏児相からは今年2月頃、県に対して、空調設備の不調・不足の訴えがあったにもかかわらず、その後、半年余にわたって、事実上放置しています。県の怠慢以外の何ものでもありません。

この問題の根本的な改善策は、遅れている同施設建替えや、一時保護所の定員の約2倍もの詰め込み解消を急ぐことですが、事は一刻の猶予もゆるされません。



児童相談所は、児童や保護者などの相談に応じ、必要な調査、援助や指導を行い、虐待などから児童を一時保護するなど、重要な役割を担っています。一時保護所は、虐待などで心と体に深い傷を負った子どもたちが心身ともに安全で安心できる緊急避難場所です。



みわ由美
(松戸市)



加藤英雄
(柏市)